

県内で約100人の
弁護士が活躍

弁護士



市民や企業などの
権利を守る仕事。

小前田さんは司法試験を合格後に、「ふるさとで開業しよう」と決意しました。その理由は、「依頼者の権利を守るという点では、弁護士に場所は関係ない。ならば地元で貢献したい」という思いからでした。「どの仕事も同じでしょうが、弁護士の業務領域は幅広く、日々勉強は欠かせません。また福井はいま、30代、40代の若い弁護士が増えており、彼らとの研修会も刺激になりますね」。

市民や企業などの依頼者が持つ適正な権利を守るのが弁護士の仕事です。弁護士になるには、法科大学院に進み司法試験に合格するか、法科大学院に進まない場合は司法試験予備試験を合格後に司法試験に挑みます。

小前田 田(ひろし)さん(31歳)は、関西の大学から法科大学院に進学後、司法試験に合格。26歳で小前田法律事務所(福井市)を開業しました。交通事故や家族、企業

間のトラブル、さらに刑事事件の弁護など幅広い業務を担当しています。「特に多い依頼は、交通事故の損害賠償に関するトラブルです。一般的に外傷などを受けた被害者は、低い賠償金に甘んじる場合が多いのですが、弁護士が入った示談や裁判により正しい権利を獲得できます。法律のプロとして、皆さんが適正な権利を獲得できるよう支援していきたい」と話します。